



◆vol. 168

## 『人生の経営戦略』

山口 周(著) ダイヤモンド社(2025年1月)

主要な経営理論(ポジショニング、ブルーオーシャン、ライフサイクル・カーブ、パーパス等)を自分ごとにして一気に学べる一冊です。

2025. 7

中村淳税理士事務所

# book review

### 【感想】

著者は、電通・BCGを経て独立し、ビジネス思想家として活躍している山口周氏。

コンサルティング時代に有用であった経営戦略論、マーケティング、財務、組織行動論などの経営学を「人生の経営戦略=ライフ・マネジメント・ストラテジー」に応用して解説したキャリア本。

人生を「時間資本を別の資本に変えるゲーム」と捉え、以下のような「人生というプロジェクトの原理」を提示しています。

時間資本を人的資本(スキル・知識・経験)⇒社会資本(信用・評判・ネットワーク・友人関係)⇒金融資本(現金・株式・不動産等)の順番に変えていく。

そして最終的に、人的資本(自己効力感)・社会資本(社会的つながり)・金融資本(経済的安定性)、これら3つが、個人のウェルビーイング(幸福・充足)に直結すると説いています。

人生という超長期プロジェクトを、経営学のフレームワークをもとに示しており、時間配分、意思決定、資源配分、成長戦略など、中小企業経営にも応用できる具体的手法が満載です。

### 【以下引用】

・組織にとって「経験」とは資源です。なぜなら「経験」を与えることによって人的資本が増加するからです。したがって企業は、ヒト・モノ・カネといった経営資源同様に「経験」についても、最も大きなリターンの期待値をもつ対象に投資すべき。どのような対象に投資するのが最もリターンの期待値が大きいのか？ リターンの期待値＝NPV(正味現在価値)を大きく左右するのは「時間の長さ」ですから、答えは「できるだけ若い人」

・創造性を向上させる上で「鉄板のアプローチ」が存在することはわかっています。それは「とにかくたくさんアウトプットを出すこと」です。人生の経営戦略において重要な KPI は「打率」ではなく「打席数」

・ざっくり9割の人は、自分の仕事を「どうでもいい」と思っており、「仕事の意味」や「やりがい」を見出だせていないということが示唆されています。これはつまり、現在の社会では「モチベーション」という資源が希少化しているということを意味します。どのような時代・社会においても、個人や組織の競争優位は「希少化している資源」にアクセスできるかどうかで大きく変わってきます。もし、現在の社会で「モチベーションという資源」が希少化しているのであれば、これを獲得・創出できる個人や組織は大きなアドバンテージを持つことになります。

会社が「個人のキャリアや幸せ」を考えていくことが求められている時代において、どのような組織を作っていくべきかの示唆に富んでいる内容です。